

「公共建築の日」 2020 フォトコンテスト審査結果・講評

「公共建築の日」フォトコンテストは、平成15年に第1回が開催されて以来、毎年「公共建築」を題材とした作品をご応募いただいております。今年は、「公共建築と風景、街並み」をテーマとして、公共建築を題材に様々なアングルから切り取った写真を募集し、道内外各地から多数の作品をご応募いただきました。公正な審査の結果、入賞作品を決定いたしましたので、お知らせします。

審査委員 全体講評

18回目を迎えた「公共建築の日」フォトコンテストは、コロナ禍にもかかわらず110点もの力作が寄せられました。参加者の年齢構成は10代から80代までと幅広く、道内はもとより道外からの参加もあり、このコンテストが広く認知されてきたことを感じます。

撮影対象も全道に広がり、歴史的な建築や身近な公共建築など様々でした。応募数は例年より少ないものの例年以上にレベルの高い作品が多く、審査員を悩ませながらも、楽しく、かつ厳正に審査が行われました。

(入賞者名:敬称略)

デジタルカメラ部門

★★★グランプリ

佐竹 輝昭

「夏空へジャンプ」

施設名:大倉山

ジャンプ競技場



◆審査委員講評

スキージャンプ台であるが、冬ではなくて夏に撮った写真というのがユニーク。空も青くきれいな濃い緑に囲まれてすがすがしさを感じさせる。

五輪マークをどんと前面の真ん中に押し出した構図が素晴らしい。「コロナに負けず、オリンピックに向かう」というメッセージが込められているかのように力強い印象を受ける。

★★準グランプリ

南部 孝

「駅まで歩こうか」

施設名：旭川駅



◆審査委員講評

駅舎と歩道がライトアップされて、タイトルのおり「駅まで歩こうか」と本当にそういう気持ちにさせる夕暮れ時の写真。光のとらえ方がいい。

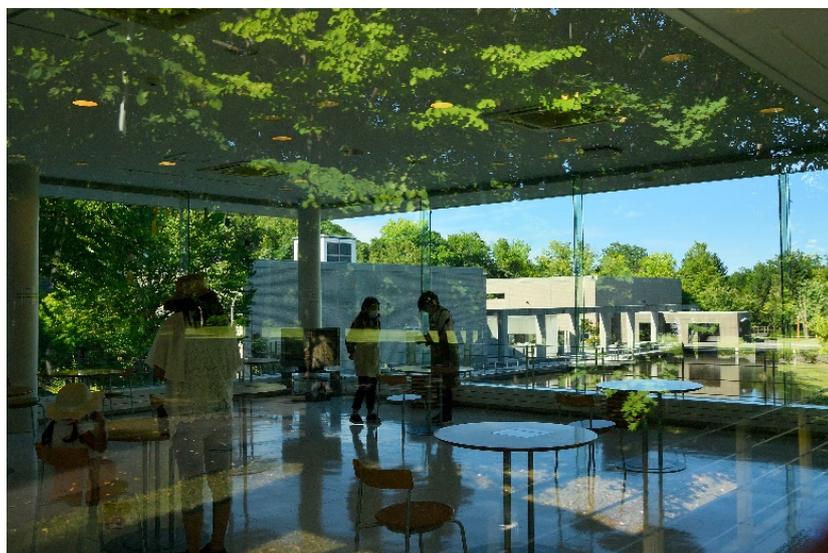
いつも通っているいつもの風景という印象で、募集テーマにも非常に良くマッチしている。

★★準グランプリ

山内 崇司

「緑に包まれて」

施設名：札幌芸術の森美術館
とクラフト工房



◆審査委員講評

撮影対象施設は、外の風景や建物同士とのつながりを意図していると思われる。

この写真は、そういう建物の設計意図や特徴をうまく表現できている。作品全体に占める濃い緑色が印象的で、ガラスに建物が映り込むことを生かした構図も見事である。

★佳作
日野 透
「春の装い」

施設名：北海道庁 赤レンガ



◆審査委員講評

赤レンガ庁舎をこの角度から撮影した写真は非常に珍しい。現地の周囲状況から桜を取り込んだアングルというのも難しく苦勞がしのばれる。光の使い方が良く、レンガの質感や屋根の青緑がきれいに表現されている。

★佳作
小野 高秀
「家族仲良く」

施設名：モエレ沼公園・ガラスのピラミッド



◆審査委員講評

この作品のアングルはありそうであまり見かけないもの。手前に家族をもってきていて画面のバランスが良い。惜しむらくは空が青い晴天の日であれば透明感が出て、さらに良い作品となったと思う。

★佳作
高島 賢
「緑の中で」

施設名：北海道大学農学部 第2農場 釜場



◆審査委員講評

光のとらえ方が非常に優れている。やわらかい光が建物に当たっていて建物の細かいディテールが良く表現されている。緑の木々を大きく取り込んだ画面構成も素晴らしい。

★佳作
佐藤 靖
「桜の花束と・・・」

施設名：北海道百年記念塔



◆審査委員講評

タイトルが詩的で秀逸である。記念塔がもうすぐ解体されることを思い、満開の桜を花束に見立て「これまで有難う」という感謝の気持ちが伝わってくるような作品。

携帯・スマホ部門

★★★特選

美馬 のゆり

「Social Distancing」

施設名：公立はこだて未来大学

◆審査委員講評

作者は、この建物の身近にいて建物の特徴をよく理解していると感じさせる作品。建物の内側から撮影した視点が面白く、構図が素晴らしく作品のレベルも高い。

外壁面のガラスに光が透過する様子をうまく表現している。人物を象徴的なシルエットでとらえ、「ソーシャルディスタンス」と、コロナ禍の時流を見事に表現している。



★★入選

穴戸 宏光

「帰還」

施設名：フィッシャーマンズワーフ&釧路港

◆審査委員講評

シャッターチャンスが素晴らしく、全体の雰囲気非常好い。夕日と船が戻ってくる瞬間を的確に押さえており、タイトルもうまい。建物がもっと大胆に大きく占める構図となればさらに良くなったと思う。



★★入選

中村 佳弘

「夜に浮かぶ博物館」

施設名：国立アイヌ民族博物館

◆審査委員講評

光のとらえ方と構図が見事。空をもう少し明るく表現したら建物の輪郭がくっきりし作品の魅力をさらに増したと思う。



★★入選

杉山 恵

「都会の要塞」

施設名 : JR 札幌駅

◆審査委員講評

札幌駅南口広場のアピアドーム(ガラスのピラミッド)からガラス越しに駅舎の時計を見上げた構図はユニークで新鮮。非常にダイナミックでアングルのにも面白く、これまで見られなかった表現である。



★奨励賞

本間 あかり

「緑から見える赤」

施設名 : 北海道庁赤レンガ庁舎

◆審査委員講評

ローアングルからとらえた構図が素晴らしい。時間帯によっては、光の加減で赤レンガをもっと赤く表現できたはず。車が写っていなければ、さらに良くなったと思う。



★奨励賞

斉藤 純

「灯りがともる」

施設名 : 札幌資料館

◆審査委員講評

門柱を大胆に手前に、その奥に建物が見える構図は、面白い。発想は素晴らしいが、資料館をもう少し大きく表現した方が、さらに良くなったと思う。



★奨励賞

藤原 睦

「秋の天文台」

施設名：札幌市天文台



◆審査委員講評

雰囲気の良い力作である。アングルをもっと下げ、撮影位置を右側に移動したら、木の葉が建物に重ならず、ドームの形もくっきりと表現できたと思う。

■フォトコンテスト審査

開催日：令和2年10月19日(月)

開催場所：セントラル札幌北ビル 6階会議室

審査員：(公社)日本写真家協会 会員	佐藤 雅英
(敬称略) 国土交通省北海道開発局 営繕部長	増田 正一
国土交通省北海道開発局 営繕計画課長	頼本 欣昌
北海道建設部建築局 建築整備課長	山口 元
札幌市都市局建築部 建築保全課長	二宮 力



事務局より

「公共建築の日」フォトコンテスト事務局を公共建築協会北海道地区事務局がバトンタッチして3年目です。コロナ禍の情勢を踏まえ募集テーマは、従前の「人が集う」をあまり強調せず、「公共建築と風景、街並み」としました。今回から新たに2団体様に後援に加わっていただいたおかげで、例年に迫る応募をいただきホッとしています。応募数は、デジタル部門が86点に対して、携帯・スマホ部門が24点でした。当フォトコンが写メールから始まっている歴史を思うと携帯・スマホ部門の応募数を増やすための工夫が課題であると感じています。

応募作品は、どれも力作ぞろいで、審査委員を悩ませることとなりました。審査中に審査委員長が繰り返し発言されていた「どの作品をどう評価するかは後日、審査する側が審査されることになる」が強く印象に残りました。

(北海道地区事務局長 須藤光幸)